

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	三重県津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	平成24年8月24日	評価結果市町提出日	平成24年10月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2470600368-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 9 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、自然豊かな環境に恵まれ鳥のさえずりが聞こえ、清らかな風が吹く心地よい広大な敷地内に在り、利用者様はホームの周りにおける遊歩道の散歩を日課として楽しく過ごして頂いています。この環境のもと、「和顔愛語」の理念で接するよう日々努力をしています。また利用者様の皆さんは認知症の症状が顕著になってきていますし、ADLの低下も進んできています。認知症の理解を深め、利用者様の心に寄り添った支援が出来るよう学ばなければならないと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鳥のさえずり声、虫の声、風景、夜景の美しさ、恵まれた自然豊かな環境に永く居住していたく様にと、事業所を設立する事が経営者の考えである。事業所は松林に囲まれた高台にある耐震鉄筋住宅であり、地域の方々からも避難場所にと依頼されている。床暖房もあり、室内は温かみのある木材を頻繁に使用されている。また、管理者は他事業所へ職員を見学させ、自己研磨し質の向上を常に目指し、心に寄り添った支援を心掛けている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然に身をもって理念が理解できるよう図る。報連相会において共有の確認に努めている。	穏やかで、やさしい言葉で利用者に接する「和顔、愛語」を理念とし、事務所、各詰所に掲示し一週間毎の報連相会議にて職員は確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として自覚を持ち、交流を心がけ理解が深まるよう努めている。	自治会会議に参加し、行事等は回覧配付して、新聞にチラシを入れたりしている。夏祭り、餅つき大会等を開催し、大勢の参加がある。また、幼稚園との交流会や、中学校からは介護職場体験に来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2470600368-00&PrefCd=24&VersionCd=022	日常業務に追われ、地域の人々への支援は十分に果たされていないのが実情である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者のご意見、感想など参考に広い視野に立った柔軟なサービス、運営を心がけている。定期開催できるよう自治会と取り組んでいる。	偶数月に予定し、6月、8月に開催した。自治会からは避難場所としての依頼はあったが、内容は行事、報告で終わり、市職員に参加依頼はしてない。	報告や情報交換にとどまらず、率直な意見をもらう良い機会と考え、行政担当者にも出席してもらう様、積極的な働きかけが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新申請時や相談時などの機会を利用し指導、協力が得られるよう努めている。また、地域包括センター職員に推進会議時相談ののってもらう機会もある。	系列のグループ代表として部長が事業相談、情報交換に出向き、管理者は更新申請、困り事等役割分担して関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合い、取り組んでいる。	職員会議で年2回、マニュアルを用いて研修を行なっている。また、週1回の報連相会議でも拘束をしない実践を、言葉の拘束も含めて職員同志で確認し、一人ひとり大切に、常に見守りを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止と同じで、理解、実践が出来るよう職員会議などで徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度があることに関心を持っている。制度を学ぶ機会を増やせるよう努めている。また、職員で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族の不安、疑問が残らないよう十分説明を行い契約をしていただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など気軽に意見が伺えるよう努めている。	利用者に日常会話の中で、家族には面会時に意見・意向を聞いている。家族が言えない状況にある場合は事務所に来て頂き何でも相談、話せる取り組みをしている。最近、脚力が弱っている様に思うので何かと考えて欲しいと意見があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報連相会において、職員の意見、代表者との毎週1回の会合で意見交換が持てるよう努めている	報連相会議において職員の意見を聞き、法人系列グループで各管理者が集約し、取り上げ部長へ検討報告し取り上げた意見は反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の点検を行い、職員が職分を全うできるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、内外の研修参加の機会を作り意欲の向上に努めている。ヘルパー2級資格についても希望者に資金援助を行っておりレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム、高齢者施設との交流を行ったりしながら、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や入居申し込み時を通じて、ご要望を確認し安心が得られるまで話し合う機会を持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の不安、希望など傾聴に努め、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と連携を図り適切なサービスが支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も思いを共有することで、信頼関係が築かれる。心を知ることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えあう立場に立って適切な支援ができると思うので取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い出を大切に途切れないよう、つないでいけるよう支援に努めている。	年金の確認を銀行に行ったり、昔、着ていた服を家まで取りに行ったり、家に帰りたい人は家族に連絡する等の支援している。電話もいつでも、かけられる様に配慮し年賀状も書いている利用者もいる。また、友人、知人、孫等が多く訪問してくる。行きたい所があれば個々に職員が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に気の合う人が、それぞれにあります。よい関係が築かれるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係を大切に支援を希望されれば対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞き出すことが困難な場合、家族の意見も聞き話し合いながら取り組んでいる。センター方式について勉強会をして一部取り組んでいる。	職員会議で今年からセンター方式を取り入れ、利用者の話の中や表情・態度を見て、家族には話を聞いて、本人・家族の思いや意向を把握し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に把握しているが、入居後日々接する中で、気が付くことがある。本人、家族と情報交換を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の変化を見逃すことがないように注意深く見守りをするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、家族が会することの困難な場合が多いので、面会時に意見を聞くなどして現実に対応した立案に努めている。	各フロアに計画担当作成者を配置し、フロア会議で介護支援専門員と検討している。モニタリング、評価を行い3ヶ月毎に見直しを行い、家族からは面会日等に意見・意向を聞き作成している。作り上げた計画は家族に報告説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を作成している。勤務交代時の申し送り、気が付いたところや様子を記入し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、出来る範囲でご希望に添えるよう取り組んでいる。想定されるサービスについて検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議、行事を通じて協力を得ながら支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームの協力医との関係を密にし、緊急時を含め対応に努めている。受診時は職員も同席し状況説明や指示ももらっている。	かかりつけ医の受診は家族に連絡し支援している。協力医の受診は月1回定期往診があり、緊急時に対応している。適切な医療を受けられるように、また、眼科・歯科等の受診も家族が支援できない時は事業所でも対応支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していないが、協力医と相談、指示が取れる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の協力により、入院の手配などられ利用者は安心して治療が受けられる体制にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医を交え、家族と話し合いを持ちながら理解が得られるよう努めている。	重度化の緊急対応は出来るが、終末期対応は出来ないことを家族に契約時に説明し、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え緊急時の対応に備えている。急変時の対応についても本、資料等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全で使いやすい担架を配置している。スプリンクラーの設置をしました。消防署と連携を図り訓練の指導助言をいただいている。地域の方にもご協力をお願いしている。	年1回、消防署と消火・避難・通報訓練をしている。スプリンクラーは設置され、備蓄もある。自治会より地域の避難場所にと依頼もあった。地域の協力もお願いはしてある。	事業所職員の防災意識を高める様に常、日頃から細かな訓練の実施と地域自治会、消防署を交えた事業所独自の訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室でありプライバシーは保たれている。職員には自尊心を傷つけないよう対応するように話している。	報連相会議で尊重、プライバシーについて確認している、理念にも掲げてある様に言葉かけにも気を配っている。トイレは各個室に設置され配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを図る中で、自己決定が出来るよう努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを把握し、その人らしさを大切に乱すような事がないように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じて取り組んでいる。話し合いながら支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託してありますが、外食に出かけ皆で楽しめるように取り組んでいる。出来る範囲で手伝っていただいている。	職員はむせこみ防止の為、見守りをしている。茶碗、湯のみ、箸は使い慣れた物を持ち込み、使用している。季節のおやつ作りをしたり、外食に(回転寿司、魚料理等)各フロアで年3回程行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分量の確保に気を付けている。調理についても柔らかく、食べやすく、塩分の取りすぎに気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りをしながら口腔ケアに取り組んでいる。治療の必要な方には歯科医の往診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、いつでも自由に落着いて利用できる。排泄の記録を取り自立に向けた支援の方法を工夫している。	日頃の会話の中で表情・態度で察し、また、排泄パターン表で把握、声かけし居室トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、食事や水分補給を行い、便秘が続くようであれば協力医の指示で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後となっていますが、個々の状況によってその都度対応しています。	週3回午後入浴を楽しんでいるが、いつでも入浴できる体制になっている。常に一人ひとり、お湯を入れ替え清潔である。季節に応じて、菖蒲湯、柚子湯もあり楽しみとなっている。また、入浴拒否の利用者は家族に顔出してもらい、入浴支援している利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なじみの寝具を持ち込んでいただいたり、本人の体調を考慮しながら、静かな環境を提供し良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況について把握に努めている。協力医、薬剤師の指示に従いながら誤りのないように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しめるよう支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を日課にしています。お花見、外食等できる範囲で、利用者の体調を考慮し外出支援している。	散歩(利用者の身体状況によりコースを分別)している。外食(回転寿司、魚料理等)桜見、また、近所のかざはや公園の四季折々の花見に行ったり、バーベキューハウスがあり、バーベキューも楽しんでいる。また、希望があれば(喫茶店のコーヒーが飲みたい等)職員が個々対応支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員や家族様管理ですが、個々に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、家族の意見を考慮し、電話やFAXを利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は狭いが、テレビ、カラオケなど設置し落ち着いて過ごしていただけるよう工夫している。	食堂、居間の窓からは自然の爽やかな風が入り、鳥のさえずり、虫のなき声が聞こえ季節感が楽しめる。廊下、食堂には利用者の作品が掲示してあり、トイレは各居室に設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気兼ねなく自由に過ごしていただけるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使用していただき、家で使っていた物やなじみの品を持って来ていただいている。	暖かさを感じられる木材を頻繁に使用され、ベッド、エアコン、トイレが設置されており、クローゼットがある。テレビ、使い慣れた椅子、家族の写真、書物等が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の能力に応じ支援している。また、自立した生活が送れるよう配慮している。		